

テーマ：貿易統計（2018年3月）
～実質輸出は2ヶ月連続の前月比マイナス～

発表日：2018年4月18日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 伊藤 佑隼
TEL：03-5221-4573

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17年	3月	6,035	1,414	11.9	16.0	6.6	4.5	▲ 0.0	7.6	4.2	14.5	4.5	6.0
	4月	4,783	900	7.5	15.2	4.1	2.9	2.7	6.7	4.9	8.8	2.9	5.7
	5月	▲ 2,044	1,535	14.9	17.8	7.6	8.1	16.7	6.7	5.4	5.5	3.0	8.6
	6月	4,332	1,011	9.7	15.7	4.0	5.2	4.6	3.6	4.3	13.5	7.8	3.4
	7月	4,066	3,261	13.4	16.5	2.6	3.0	▲ 1.0	1.9	3.2	5.7	4.6	6.6
	8月	968	3,218	18.1	15.5	10.4	18.1	2.9	9.4	2.4	1.3	3.6	3.5
	9月	6,538	2,478	14.1	12.3	4.8	6.2	▲ 1.8	8.9	▲ 0.2	14.4	4.4	▲ 1.0
	10月	2,786	3,465	14.0	19.0	3.8	1.6	0.6	7.8	3.2	0.3	11.0	4.6
	11月	1,052	3,034	16.2	17.3	5.5	4.8	▲ 1.8	9.1	2.6	14.2	▲ 1.7	6.6
	12月	3,562	312	9.4	15.0	4.5	2.9	1.5	2.5	5.9	5.5	3.3	9.6
18年	1月	▲ 9,483	3,889	12.3	7.8	9.2	4.2	9.7	9.8	2.6	9.7	9.0	0.4
	2月	26	▲ 2,122	1.8	16.6	▲ 2.2	5.1	▲ 0.9	▲ 8.5	11.7	5.2	5.9	25.7
	3月	7,973	1,192	2.1	▲ 0.6	1.8	3.4	▲ 7.5	2.5	▲ 4.6	3.9	4.7	▲ 8.5

（出所）財務省「貿易統計」

○輸入が大幅減少したことで貿易収支（季節調整値）は黒字に

3月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は7,973億円の黒字（コンセンサス：+4,983億円、レンジ：+540～+8,963億円）と、コンセンサスを上回る結果となった。

輸出金額は、前年比+2.1%（コンセンサス：+5.5%、レンジ：▲2.4%～+8.2%）と増加したものの、伸び幅は小幅にとどまった。一方で輸入金額は同▲0.6%（コンセンサス：+6.2%、レンジ：+1.1%～+11.9%）と、春節の影響によって押し上げられていた前月の反動で大幅減少となった。輸入金額については、価格が同+4.1%と金額の押し上げに働いた一方で、数量が同▲4.5%と減少したことで、前月から伸び幅を大幅に縮小させる結果となった。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲2.2%、輸入金額が同▲6.9%となった。輸出金額、輸入金額ともに前月比マイナスとなるも、輸入金額の減少が大きかったことで、貿易収支は1,192億円の黒字と前月から黒字転換した。

○実質輸出は前月比▲1.6%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲1.6%（2月：同▲1.1%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と2ヶ月連続で前月比マイナスとなった。1～3月期でみれば前期比プラスであり、輸出の増加傾向は途切れていないが、増勢は鈍化していると考えられる。このところ弱めの指標が散見されるなど、海外経済が足踏みしていたことが要因だとみられる。

実質輸出を国別にみると、米国・欧州向けともに輸送用機器が大幅に減少したことが、全体の押し下げに

繋がっている。米国向けの輸送用機器については、前月の大幅な増加（2月：同+18.1%）の反動減とみられ、特段不安視する必要はないだろう。また、欧州向けの輸送用機器についても、月によって振れの大きい船舶の寄与が大きいことから、懸念の必要はなく、全体向けの輸送用機器は増加基調を維持していると考えられる。中国向けについては、一般機械が大きく増加したことで、前月比+10.4%と大幅増加となった。春節の影響によって押し下げられていたとみられる前月の減少分（2月：同▲14.6%）を取り戻すには至っていないものの、均せば横這い圏での動きを続けている。

○輸出は先行き増勢を取り戻すと見込む

以上のように、3月の実質輸出は米国・欧州向けの輸送用機器を主因に2ヶ月連続で前月比マイナスとなった。また、1－3月期は海外経済が足踏みしていたことなどを背景に、輸出の増勢が弱まったとみられる。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は労働市場の改善や減税政策の効果が発現し、個人消費が押し上げられることなどを要因に好調さを維持するとみられる。欧州経済についても雇用環境の改善が続く中で、堅調な内需主導の景気拡大が続くだろう。アジア経済についても、底堅い中国経済や世界経済の好調さを受けて、緩やかな景気拡大が続けるとみられる。輸出は、世界経済が改善基調で推移していく中で、今後増勢を取り戻すと見込む。ただし、米中貿易摩擦の激化に伴い世界貿易が停滞することによって、輸出の増加基調が崩れるといったようなリスクについては注意が必要だ。

